

地域の博物館との連携事業

—国立科学博物館・コラボミュージアム—

国立科学博物館 事業推進部連携協力課 飯岡 達人

1. はじめに

国立科学博物館では、東日本大震災被災地域の博物館を支援するとともに、現地の方々（特に子どもたち）を元気づけることを目的に、平成 24 年度より「震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム」として、被災地域である岩手県、宮城県、福島県の博物館などと連携して、「恐竜アロサウルスや標本レスキュー活動を紹介する展覧会」「関連するテーマの講演会や体験教室」などの博物館活動を実施しているところである。

平成 27 年度には、岩手県の博物館を中心に新たな展開を行ったので、以下で概要を報告したい。

2. 「国立科学博物館・コラボミュージアム」について

(1) 「国立科学博物館・コラボミュージアム」

当館では、平成 18 年度から「国立科学博物館・コラボミュージアム」として、地域の博物館等との連携並びに地域の自然科学の振興を図るために、全国各地の博物館や教育施設と連携協力して、それぞれの地域の自然、文化、産業などに関連したテーマで展覧会等の博物館活動を実施してきた。本事業は、平成 26 年度までに 62 ヶ所で実施されており、各地域の特色を活かした展覧会等を地域の博物館との連携により行ってきた。

連携の内容については、当館と地域の博物館が共同主催で事業を企画・実施し、その中で生じる個々の展示、講演会、体験教室等の内容については、業務分担、費用分担して行うものである。事業にあたっての基本的な業務分担、費用分担は、以下のとおりである。

国立科学博物館：

展示物の選定・提供及び展覧会開催の指導・助言

国立科学博物館が提供する展示物等の輸送費及び輸送費に付随する設営経費

講演会、体験教室等の企画提供及び講師等の派遣に関わる講師旅費、謝金、教材費等

コラボミュージアム全体の広報費および現地博物館が複数連携した広域広報物作成等にかかる経費

地域の博物館：

展示会の設営から撤収までの現地での運営全般とそれにかかる経費（会場造作、人件費等）
現地での広報活動とそれにかかる経費（チラシ・ポスター等）
講演会、体験教室、その他博物館活動の実施にかかる費用

3. 震災復興・国立科学博物館コラボミュージアムの展開

平成 24 年度からは、「震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム」と銘打ち、東日本大震災で甚大な被害があった岩手県、宮城県、福島県の 3 県でコラボミュージアム事業を実施した。平成 24 年度は岩手県 7 地域、平成 25 年度には宮城県及び福島県の 10 ケ所、そして平成 26 年度には宮城県 1 ケ所、福島県 4 ケ所で開催され、現地では困難な状況が続いているなか、延べ 10 万人を超える来場者があった。

震災復興・国立科学博物館コラボミュージアムでは従来のコラボミュージアムの趣旨に加え、各被災地での実状及び要望に最大限応じられるように事業を実施した。また、展示会等を博物館施設に限定せず、自然の家など地域の拠点となる社会教育施設においても、地域での継続的な博物館活動の実施を支援するため実施した。

なお、震災復興・国立科学博物館コラボミュージアムにおいては、恐竜アロサウルスの実物全身骨格や鳥類の進化に関する展示を中心とした展示内容にて事業を展開した。

（1）平成 24 年度

久慈琥珀博物館（岩手県久慈市）、遠野市立博物館（遠野市）、陸前高田市立博物館（会場：米崎地区コミュニティセンター）（陸前高田市）、岩手県立博物館（盛岡市）、大船渡市立博物館（大船渡市）、芦東山記念館（一関市）、岩手県立水産科学館（宮古市）の岩手県 7 ケ所で開催した。

実施にあたっては、開催館相互の連携を深めるとともに、現地の方々により多くの博物館活動を提供することをねらい、開催館をめぐるスタンプラリーを行った。

（2）平成 25 年度

リアス・アーク美術館（宮城県気仙沼市）、いわき市石炭・化石館（福島県いわき市）、福島県立博物館（会津若松市）、村田町歴史みらい館（宮城県村田町）、



アロサウルスと記念撮影する地元の子どもたち



ギャラリートークの様子

小野町ふるさと文化の館（福島県小野町）、福島県郡山自然の家（郡山市）、福島県文化財センター白河館（白河市）、国立那須甲子青少年自然の家（西郷村）、猪苗代町体験交流館（猪苗代町）、スリーエム仙台市科学館（宮城県仙台市）の10箇所で開催した。

本年度も、開催館間でのスタンプラリーを実施するとともに、国立科学博物館へのバスツアーや恐竜作品コンテストなど新たな企画を展開した。



スタンプラリーカード

(3) 平成 26 年度

福島県文化センター（福島県福島市）、スリーエム仙台市科学館（宮城県仙台市）、南相馬市博物館（福島県南相馬市）、福島県会津自然の家（会津坂下町）、福島県いわき海浜自然の家（いわき市）で実施した。

本年度は、スリーエム仙台市科学館で開催する特別展に協力する形で、当館が所蔵するティラノサウルスとトリケラトプスの全身復元骨格の展示を行うなど新たな連携の形も生まれた。



アロサウルス公開組立の様子



体験イベントの様子

4. 平成 27 年度における震災復興・国立科学博物館コラボミュージアムの展開

平成 26 年度までの震災復興コラボミュージアムにおいて展示の中心を担ってきたアロサウルスの実物全身骨格が、当館常設展示リニューアルに際して、常設展示に組み込まれたことから、新たな展示物を中心に事業を継続することとなった。そこで本年度からは、「生物界の怪

しい仲間たち」と題して、見た目や生態が不思議で興味深い動植物や当時は謎に満ちた存在であった古生物の化石などの自然史標本、江戸時代に描かれた妖怪に関する資料などを展示し、その怪しい生態や興味深いエピソードなどにスポットを当てた展示を行うこととなった。

人間の目から見ると怪しいと感じられる生き物であっても、自然界においては、自己防衛や同種間のコミュニケーションのために必要な特徴的な外見であるなど、その生物にとってはごく当たり前なものであることが多い（逆に、他の生物たちから見ると人間は怪しい存在であるという考え方もある）。企画にあたっては、それら標本・資料の展示により、生物の多様性について考えるきっかけとなり、また、「怪しいもの（不思議なもの・興味深いもの）」を集めて、保管して、調べるという作業は、実は、古くから行われてきた人類に象徴的な営みであるということを考えられるような展示構成を考えた。その上で、純粹に「怪しい」標本として、来場者に楽しんで、興味深いものとして展示をご覧いただけるような構成とした。

また、被災地での巡回を想定し、比較的小規模な展示会場であっても展覧会を行えるような規模での構成を検討した。

（1）遠野市立博物館

岩手県遠野市の遠野市立博物館と共催で、平成27年7月24日（金）～9月23日（水・祝）に開催された遠野市立博物館での夏季特別展「遠野物語と妖怪」に合わせる形で実施した。遠野市立博物館での特別展では、江戸時代に描かれた妖怪に関する史料、遠野物語に登場する史料や遠野の妖怪ゆかりの史料など人文系の展示が行われる一方、コラボミュージアムにおける展示では自然史系の展示が多くを占め、「怪しいもの」という共通のテーマにおいて異なる分野間でのコラボレーションが実現した。



展示の様子

（2）岩手県立博物館

盛岡市の岩手県立博物館と共催で、平成27年9月25日（金）～11月8日（日）に実施した。岩手県立博物館では、今回の企画にあわせて鳥類剥製標本（ブッポウソウ、コノハズク、アオバト等）、クモ液浸標本（ジグモ、カバキコマチグモ）やノジュール標本など、地元にある標本が出展され賑やかな展示となった。

また、コラボミュージアムの展示物の一部である海藻標本の展示に関連して、東日本大震災で被災した海藻標本も展示された。

さらに、期間中には、コラボミュージアムに関連したイベントとして、当館植物研究部の海老原淳研究主幹による「シダ標本同定会」及び北山太樹研究主幹による「海藻の怪しい生き方」と題した講演会を行った。一般の参加者や岩手県植物誌調査会の方にもご参加いただき大変好評であった。

シダ標本同定会では、同定が難しいと言われるシダ植物を見分けるための基礎知識を身につける講義を行った。講演会では、当館が行った被災標本のレスキュー活動を紹介するとともに、海藻の生活史の多様性について展示解説も交えながらトークを行った。

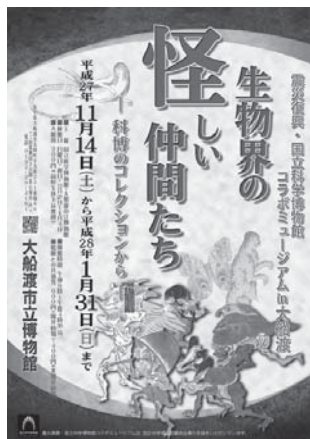


ギャラリートークの様子

(3) 大船渡市立博物館

大船渡市立博物館と共催で、平成 27 年 11 月 14 日（土）～平成 28 年 1 月 31 日（日）に実施した。大船渡市立博物館においても、独自の展示資料として、鬼の牙（ウマの歯）、蛇の皮・ウロコ（蛇紋岩・蛇体石）、蛍の光（蛍石）、菊の花（灰鉄輝石）、桜の花（桜石）、シダの葉（忍石）、星粒の光（灰重石）などの地元産の鉱物などを出展し、怪しいものとして紹介した。

また、期間中には当館地学研究部真鍋真グループ長による「怪しい恐竜たちの話」と題した講演会や 3D デジタルコンテンツを活用した体験学習「恐竜 3D むりえ」を実施した。



コラボミュージアムのポスター



展示の様子

(4) 久慈琥珀博物館

久慈琥珀博物館と共催で、平成 28 年 2 月 5 日（金）～平成 28 年 3 月 27 日（日）に実施予定である。久慈産の昆虫入り琥珀や、マンモスの実物大型牙の出展に加え、真鍋グループ長による講演会や、現地での琥珀発掘体験や琥珀手作り体験教室などを関連イベントとして実施予定である。

5. おわりに

当館がコラボミュージアム事業を開始してから10年が経過する。これまでの本事業による当館と地域の博物館との連携により、地域博物館の活性化及び地域の活性化、当館及び地域博物館の人的・物的資源の効果的な活用につながるよう展開を行ってきたところである。また、震災復興・国立科学博物館コラボミュージアムにおいては、展示物の巡回や広域でのスタンプラリーの実施などを通じて、地域の博物館間のネットワークを拡大・充実する効果も生み出された。

博物館同士の連携協力により、お互いに知恵を出しあい刺激しあうことによって、新たな魅力を創出し、より充実した博物館活動を行うことができると思われる。今後も、博物館同士の連携による、博物館や地域の自然科学の振興に資する有意義な事業を企画、実施していきたい。